

目 次

まえがき v

第 I 部 日本語はどういう言語か

—内から見た日本語, 外から見た日本語—

第 1 章 複合語の小宇宙から日本語文法の大宇宙を探る	影山太郎	2
1. はじめに		2
2. 動詞領域と名詞領域に見られる膠着性の非対称性		5
3. 時制付きの複合動詞		10
4. 時制を伴わない複合述語		16
5. 定形と非定形の間隔的な複合述語		18
6. まとめ		22
第 2 章 「話し手」考慮の重要性と日本語 —「～ている」と「～てある」表現を中心に—	高見健一	27
1. はじめに		27
2. 「～ている」構文		32
2.1. 従来の分析とその問題点		32

- 2.2. 代案—話し手は発話時に何が観察できるか? 36
- 3. 「～である」構文 40
 - 3.1. 従来の分析とその問題点 40
 - 3.2. 代案—話し手は行為者か、観察者か? 42
- 4. 結び 48

第 II 部 ことばの科学

—将来への課題—

第 3 章 音韻論の課題

—類型論的観点から見た日本語の音韻構造—

.....窪園晴夫 52

- 1. はじめに 52
- 2. 母音の有標性 54
- 3. 子音の有標性 57
- 4. 音節とモーラ 61
- 5. 音節構造の有標性 64
 - 5.1. 開音節と閉音節 64
 - 5.2. 頭子音 66
 - 5.3. 残された問題 69

第 4 章 日本語学の課題

—「記述」と「理論」の壁を越えて—

.....三宅知宏 74

- 1. はじめに 74
- 2. 現状と今後の方策 75

- 2.1. 現状 75
- 2.2. 「壁」の問題点 81
- 2.3. 「壁」の乗り越え方(壊し方) 84
- 3. 事例 85
 - 3.1. 理論的研究が日本語の事実を正しく捉えていない例—
WH 疑問文— 86
 - 3.2. 言語理論に基づいて検証すると興味深い知見が得られる
例—岡山方言の WH 疑問文— 88
 - 3.3. 言語理論からの予測によって、新たな記述が可能になる
例—付帯状況文— 93
- 4. おわりに 95

第5章 社会言語学の課題

—ことばの選択を考える—

..... 嶋田珠巳 97

- 1. はじめに 97
- 2. ことばの選択 98
 - 2.1. 「選択」という考えかた 99
 - 2.2. 「選択」における意図性 102
- 3. ことばの選択をめぐる社会言語学的话题 104
 - 3.1. ことばの選択に関わる条件 104
 - 3.2. 「ことばの選択」に関する概念的整理 105
- 4. アイルランドの事例にみる「ことばの選択」 109
 - 4.1. マクロな「ことばの選択」：言語交替 110
 - 4.2. ミクロな「ことばの選択」：言語形式の使用をめぐる話者
意識 113
 - 4.3. 「ことば」の価値評価 117
- 5. 「〈社会言語学〉将来への課題」を視野に 121

第6章 生成文法の課題

—人間の言語機能の解明に向けて—

.....高橋将一 127

1. はじめに 127
2. 併合とその制約 129
3. 節減的理論への経験的挑戦 133
 - 3.1. NTC からの限定的な逸脱 133
 - 3.2. 併合における局所性の効果 138
 - 3.3. 併合に対する制約：今後の展望 145
4. おわりに 149

第7章 認知言語学の課題

—文化解釈の沃野—

.....大堀壽夫 152

1. 序論 152
2. 認知言語学の過去・現在・未来 153
3. 解釈学的言語学 155
4. 文化のキーワード 161
 - 4.1. 背景 161
 - 4.2. より新しい言語学的研究 163
 - 4.3. 単語の意味を詳しく見る 164
5. 結論 170

索引..... 174